

## 第1回やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議におけるご質問について

■本市の特性を本推進会議で共有し、他自治体の成功例を踏まえた事業の検討が必要。また、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業（地方創生先行型）の各事業は八代市独自の取組みか否か。

- ・本市の特性を、主に下記のように捉え「八代市まち・ひと・しごとプラン」や「八代市総合戦略（素案）」の策定を行った。（「八代市まち・ひと・しごとプラン」P11参照）
  - ①南九州の交流拠点都市として、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道、九州新幹線、重点港湾八代港が整備され、交通の利便性を有する。
  - ②2つの総合病院のほか、市立病院など多くの医療機関がある。
  - ③1年を通して温暖な気候に恵まれ、日本一を誇るトマトの生産など全国有数の農業地域である。
  - ④平家落人伝説が残る秘境 五家荘や開湯600年の歴史を誇る日奈久温泉など歴史と自然があふれる豊かな地域である。
  - ⑤西日本で唯一の競技大会である「やつしろ全国花火競技大会」や国指定重要無形民俗文化財の「八代妙見祭」、国際マーチングリーグ(IML)の公式大会である「九州国際スリーデーマーチ」など、魅力あるイベントが多数ある。
- ・他自治体の事例については、[参考資料2](#)「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）基礎交付分 取組事例集」を参考としていただきたい。
- ・平成27年7月3日開催の「第1回やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議」における[会議資料1](#)のP30で示した「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業（地方創生先行型）」は、従来の国庫補助事業では対応できない事業を交付対象とするものであり、本市独自の事業として取組むものであるが、他自治体において類似の取組みがあることも考えられる。

■熊本市と八代市は、以前は人口の格差が無かったが、なぜ、現在のように人口格差が生じてきたのか検証する必要がある。

- ・詳しい検証はできていないが、「熊本県人口ビジョン（素案）」によると、熊本市は、周辺にテクノパーク等の工業団地を有する産業集積地があり、大津町・菊陽町を始め周辺市町村への通勤・通学者が非常に多い。周辺市町村の雇用の場の充実に支えられ、ベッドタウンとしても発展したことが格差の大きな要因のひとつかと思われる。